

～【教育は「共育」「協育」「強育」で】～

「してあげるやさしさ」「しないやさしさ」について全校生徒に向けて話を2ヶ月経ちました。授業の様子を見ていても、生徒はみんな静かに聞くときは聞く、話すときは話す、のけじめがついているように思います。授業が分からないからと言って、隣の生徒を巻き込んで無駄話をしようとする生徒も皆無です。生徒の皆さん、もしかしてそんな場面があったら遠慮なく先生方に申し出て下さい。一生懸命に学ぼうとする人の妨害は決してすべきではありません。そしてそれが日常的に続くときは「学習権の侵害」にもつながりかねない大変な問題となります。

やはり授業というものはいつの時代になってもある程度の「緊張感」は必要です。まず自分がその授業をしっかりと理解するために必要な緊張感、そしてクラスメートが学習に集中できる環境づくりに配慮する緊張感、この2つをもって授業に臨むことができたなら、鹿南中は一人一人の生徒が自分の希望、夢の実現に向かって安心して邁進できる、すばらしい学校になっていくと思います。

体育大会も終わり、部活動の様子を見てみると、中体連に的を絞り、各部、一生懸命に練習しているようです。

全体的に非常に落ち着き、どこに出しても恥ずかしくない雰囲気を持ってはいるものの、一人一人の子ども達はいろいろな悩みを抱えているようです。友達関係のトラブルがどの学年でも発生しているようです。

この世に生を受けて以来、異なる家庭、環境で育った子ども達が集い、学ぼうとするところが学校です。気の合う生徒もいるし、そうでない生徒がいるのもまた当然です。

そうした流れの中で、たまにけんかやトラブルが発生します。その場合、私たちはすぐに指導に入り、関係するすべての生徒がこれからも安心して学校生活を送れるように方向づけていきます。しかし、親の一言は教師の千言に優ります。私達がどんなに繰り返し指導しても、保護者のたった一言のもつ力には叶いません。

子どもさんが道を誤りそうになった、このままでは将来が心配だと判断したときは、保護者の皆様の一言に頼るために、学校から連絡を差し上げます。その時はどうかご協力をお願いします。子どもさんをいっしょに叱りましょうという意味では決してありません。私の気持ちは、鹿南中学校HPの冒頭挨拶にも書いていますとおりです。(お時間あるときは是非こちらもご覧ください。)一部抜粋します。

～子ども達はいずれ一人で生きていかねばならない日がやってきます。そうなるもしっかり生きていけるような力、「生きる力」をつけていくのが、

私たちに課せられた使命だと思っています。人生は楽しいこと、うれしいことばかりではありません。きついこと、つらいこと、悲しいこともあるのが人生です。ですから、私たちは子ども達からきつき、つらさ、悲しみを取り除こうとしてやるのではなく、彼らが歯を食いしばってこれに立ち向かっていけるような力を身につけさせるために背中を押してやらねばなりません。そのためには学校と保護者が同じ方向を向き、同じスピードで進む必要があります。

保護者の皆様。どうか保護者の皆様のお力をお借りし、学校と家庭が共に育てる「共育」、協力して育てる「協育」、そしてたまには「是々非々」を教え込む「強育」を実現し、鹿南中の子ども達をたくましく育てていきたいと思っています。～

これからいろいろな場面があるかもしれません。保護者の皆様、くれぐれもよろしく願いいたします。

～【5月の多読賞】～

授業中に一人一人の生徒がタブレットを操り、意のままに情報を集め、自主的に学んでいく、という授業が当たり前になりつつあります。すごい時代になったものです。しかしいつでも、どこでも、どのような内容でも、望む情報が瞬時に手に入るということは、情報の受け手となる人に膨大な情報を処理できる力がこれまでの何倍も必要になってきたということを意味しています。そのためには豊富なキャブラリーが不可欠です。そしてそれを増やす手段は読書しかありません。

さて5月30日現在で、わが校での最多読のベスト3を紹介します。

★第1位 小山寧々さん (2-3) 45冊

★第2位 山本あさひさん (3-3) 24冊

★第3位 渡辺豊心さん (3-3) 20冊

★第3位 松尾那奈さん (3-3) 20冊

読書はこれからの時代に必要な情報処理能力を伸ばすだけではありません。その本の世界に入り込むことによって、様々なことを経験し、喜怒哀楽を感じる中で、感性豊かな人間性が形作られていきます。生徒の皆さん、本をたくさん読みましょう。司書の重石先生がレイアウトを工夫され、これまで以上に使いやすい図書室にされています。図書室をもっともっと利用してください。たくさんの作家達との出会いも待っていると思います。



